

実践事例04

在籍校や進学先の中学校との 情報共有・連携

— 切れ目のない支援を目指して —

Aさんの「書き」の困難さ

- ✓ 字形が整わず、自分でも読めないことがある
- ✓ 「とめ」「はね」「はらい」が上手く書けない
- ✓ 「書く」ことに集中すると、その間に話されたことが聞けない
- ✓ 「書く」ことで、極度に疲れる
- ✓ 筆圧が極端に弱い
- ✓ 流暢に話すが、何をどう書いたらいいかわからず、作文が書けない
- ✓ 筆算で、位がそろわなかったり、繰り上がりの数字を大きく書いてしまったりして、計算ミスをする
- 読むことは得意で、中学生レベルの漢字も読め、読書が好き

「用紙」や「道具」

などのカスタマイズ

連絡帳

月 日 曜日

時間わり通り

1	国	算	理	社	体	図	音	英語	書写	道徳	総合	学活	
2	国	算	理	社	体	図	音	英語	書写	道徳	総合	学活	
3	国	算	理	社	体	図	音	英語	書写	道徳	総合	学活	
4	国	算	理	社	体	図	音	英語	書写	道徳	総合	学活	
5	国	算	理	社	体	図	音	英語	書写	道徳	総合	学活	
6	国	算	理	社	体	図	音	英語	書写	道徳	総合	学活	

宿題	漢字ドリル	計算ドリル	
	プリント	まい	音読
持ってくる物	体操服	エプロン	
連絡			

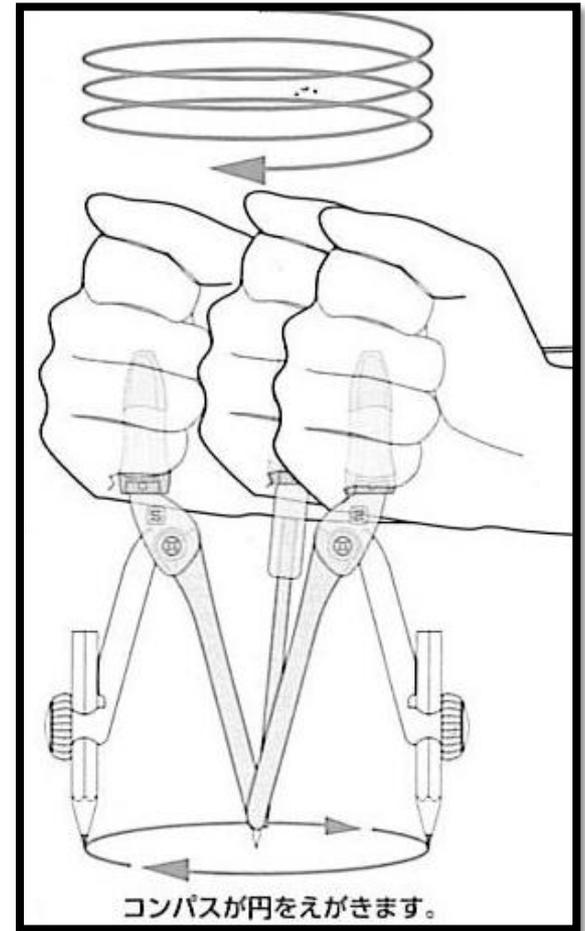
簡単に書ける様式に

協調運動の苦手さを補う



すべりにくい定規

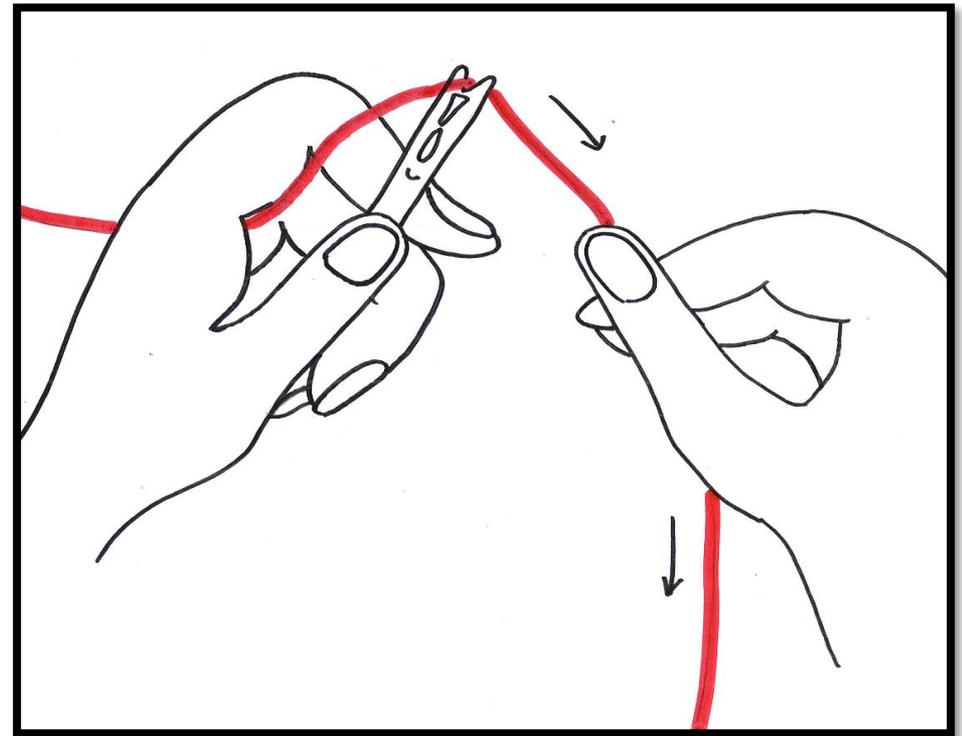
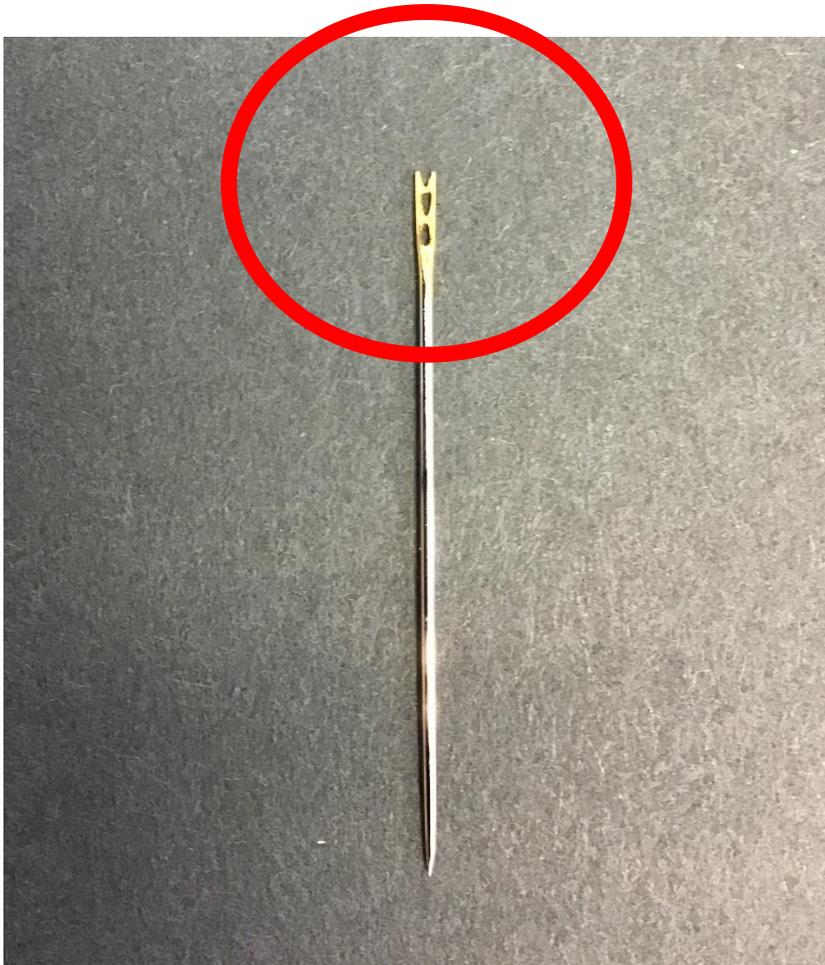
協調運動の苦手さを補う



説明書より

「くるんパス」…くるくる回すと簡単に円が描けるコンパス

協調運動の苦手さを補う



糸を押さえるだけで、簡単に糸通しのできる針

紙と鉛筆

→ iPadで

3年生の時

iPadを使って、家庭で

宿題に取り組む

(3カ月程度)

5年生の5月中旬頃より、 学校でのiPad使用開始



- iPadで宿題を再び始める
- iPadの持ち込みの検討する
(学校、教育委員会)
- 使用するタブレットを母親と本人で決める
→将来的なことも考慮してiPadに決定

①

ICTを活用した

在籍校や教育委員会との

情報共有

AさんがiPadを使ってできること (使用しているアプリやスキルなど)を 学校や教育委員会と共有 【オンラインでサポートの会を開催】



オンラインでの情報共有の成果

- 離れた場所を繋げて話をするのができ、移動時間がないので、時間の調整が行いやすかった
- 動画を用いながら情報の共有ができたので、より具体的なiPad利用の仕方が伝えられた

②

ICTを活用した
進学先の中学校との
情報共有

中学進学に向けて・・・

6年生の5月頃より

- 自分の特性
- 必要な合理的配慮

についてプレゼンを作り、進学先の
中学校に伝えよう

プレゼンを作成した成果

- 「相手に伝える」ことを考えて作成した
- 自分自身について考え、紹介のプレゼンを作成することで、自己理解が深まった
- 今後、必要な場で合理的配慮を伝える

(*セルフアドボカシー) 練習になった

*セルフアドボカシーとは、自分に必要なサポートを、自分で周りの人に説明して理解してもらうための活動のこと

今後

- 在籍校で、プレゼン発表のリハーサルを行う
 - 先生からアドバイスをもらう
 - 在籍校の先生に知ってもらい、同じような児童がいた時にできる支援を伝えたい
- 進学先の中学校で、プレゼンを行う
 - iPadを使用している動画を見てもらうことで、アプリやスキルを知ってもらい、具体的な合理的配慮の検討をお願いしたい